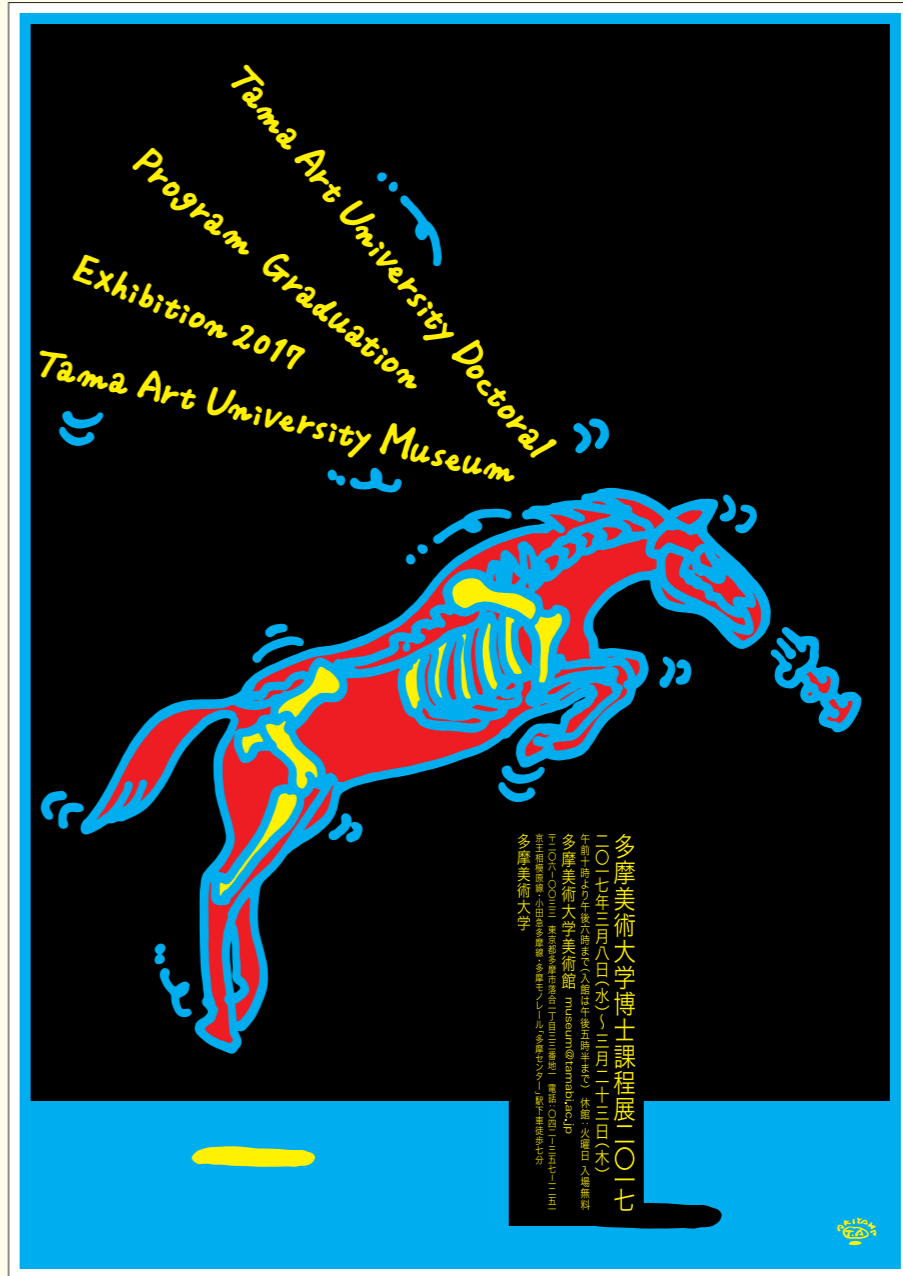
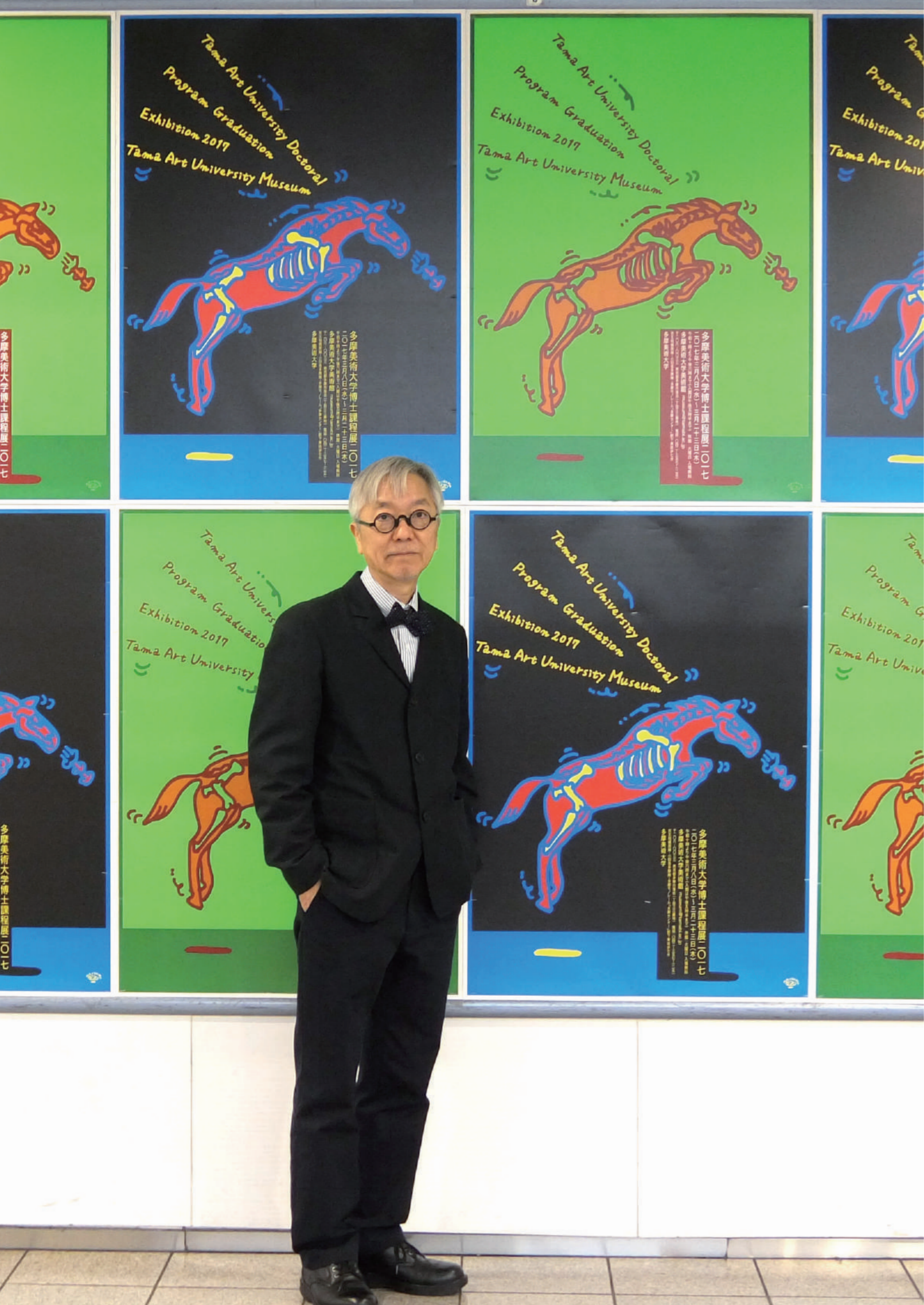


Poster-8 2017-2016
Takashi Akiyama





ごあいさつ

秋山 孝

秋山孝ポスター美術館長岡・館長
多摩美術大学・教授

秋山孝ポスター美術館長岡(APM)は、2017年7月9日で創立8周年を迎える。新作ポスター集「Takashi Akiyama Poster-8」を発行することができた。

本年度は「イラストレーションスタディーズ」がタイのシラパコーン大学で出版された。中国の2大都市、武漢と西安で講演、展覧会を行った。武漢では、武漢大学で秋山孝の神秘「メタファー」「点と線」について講演を行い、シンポジウムでは「子供の安全」がテーマで「ふなばしアンデルセン公園」というタイトルで、約30年間にわたる活動や目的の実現のプレゼンテーションを行った。西安では、西安建築科技大学で講演をし、客座教授の称号を受け、陝西省美術博物館において「秋山孝の100点のポスター」展を開催した。グラフィス2017で4つのシルバーメダルを受賞し、ラハティ(フィンランド)、ゴールデンビー(モスクワ)、ポリビア、メキシコの各ビエンナーレにいつものように入選した。また、APMにおいて第2回「日本ブックデザイン賞2016」を開催した。

今年の特徴的なポスター作品を3点あげるとすると、1つ目は「多摩美術大学博士課程展2017」だ。多摩美術大学博士課程展2017は14回目を迎えた。今回は日本画1名、工芸1名、イラストレーション2名が博士となった。日程は3月8日から3月23日まで多摩美術大学美術館で開催された。美術大学の特徴を活かして博士課程は論文と作品で審査される。主査、副査は理論と実技の教員で構成されている。ぼくの指導した柏大輔の題目は「イラストレーションにおける〈異型〉のイメージ作りのための方法試論」で、永田香は「ヴィーガニズムとリレーショナルアート」である。この2名が博士になったことは、指導者にとって誇らしいものとなった。デザインは馬の体内の骨も描かれ本質的な意味を表現し、知識の問題を乗り越えることをイメージした。

2つ目は「熊本地震 / 熊本城 - Earthquake Japan」だ。「災害支援においてデザイナーのできることは何かということから、ポスターの力を使い災害を忘れずに記録すること」を目的にスタートした。13年目を迎える地震ポスター支援プロジェクト・ポスター展では、2016年4月14日熊本で起きた地震をとり上げた。熊本は、過去の阿蘇山噴火による堆積物でできた地質が特徴だ。5ヶ月間での震度回数は、震度7が2回、震度6強が2回、震度6弱が3回、震度5強が4回、震度5弱が9回と合計2,122回と今までに見られない地震動が観測された。ポスターデザインは、熊本を象徴する熊本城が地震で飛ぶ、あるいは浮かぶ姿を描いた。ブルーは熊本の美しい水を表している。そして、心より熊本の復興を願っている。

3つ目は、「秋山孝の神秘「点と線」展 / 点と線・面・骨」だ。2016年7月9日から9月24日まで、APMで開催した秋山孝の神秘2の2点シリーズの1点である。講演会テーマは「点と線」で、サブタイトルは「形を失う形の活用の思考」の考察とした。その内容のイントロダクションとして、31歳の若さで没した19世紀のフランスの画家ジョルジュ・スーラを取り上げた。スーラは光学的理論を取り入れ、点描という技法を生み出した。彼は、従来の空間とは異なり、光学的な視点で平面上における空間の概念を発見した。その考え方をもとに、核医学検査の骨シンチグラフィで撮影した秋山孝の写真を活用し、点によってできる表現を使い、今回のポスターを制作した。

今回取り上げたポスターは、今年の代表的なイベント、秋山孝のポスター哲学、今年の災害である。特に熊本地震は、これまでの地震とは異なり、5ヶ月で2,122回という驚異的な回数の揺れを観測したということだ。ポスターの魅力は、これらの時代を芸術性のある魅力的表現で記録することにある。



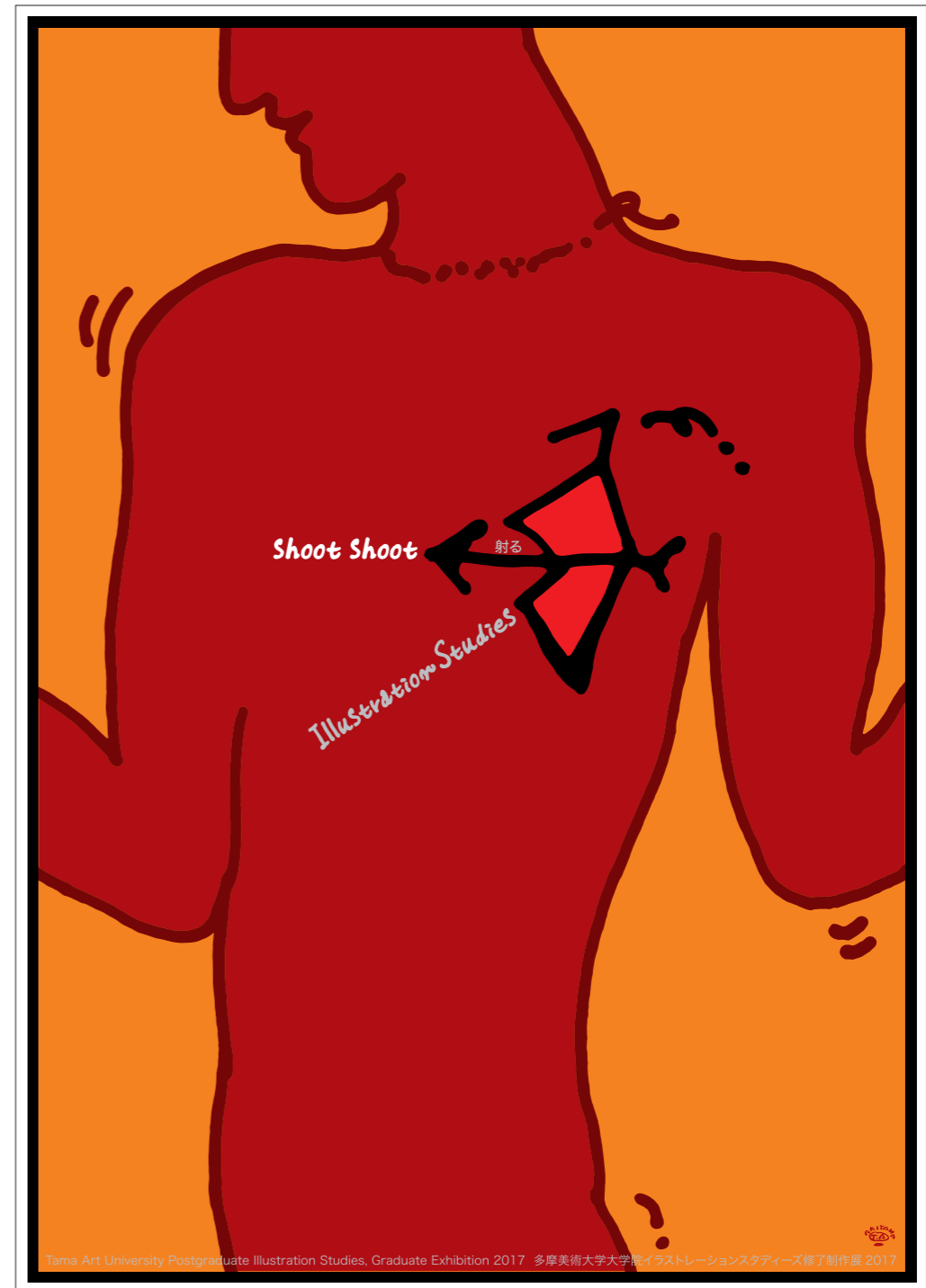
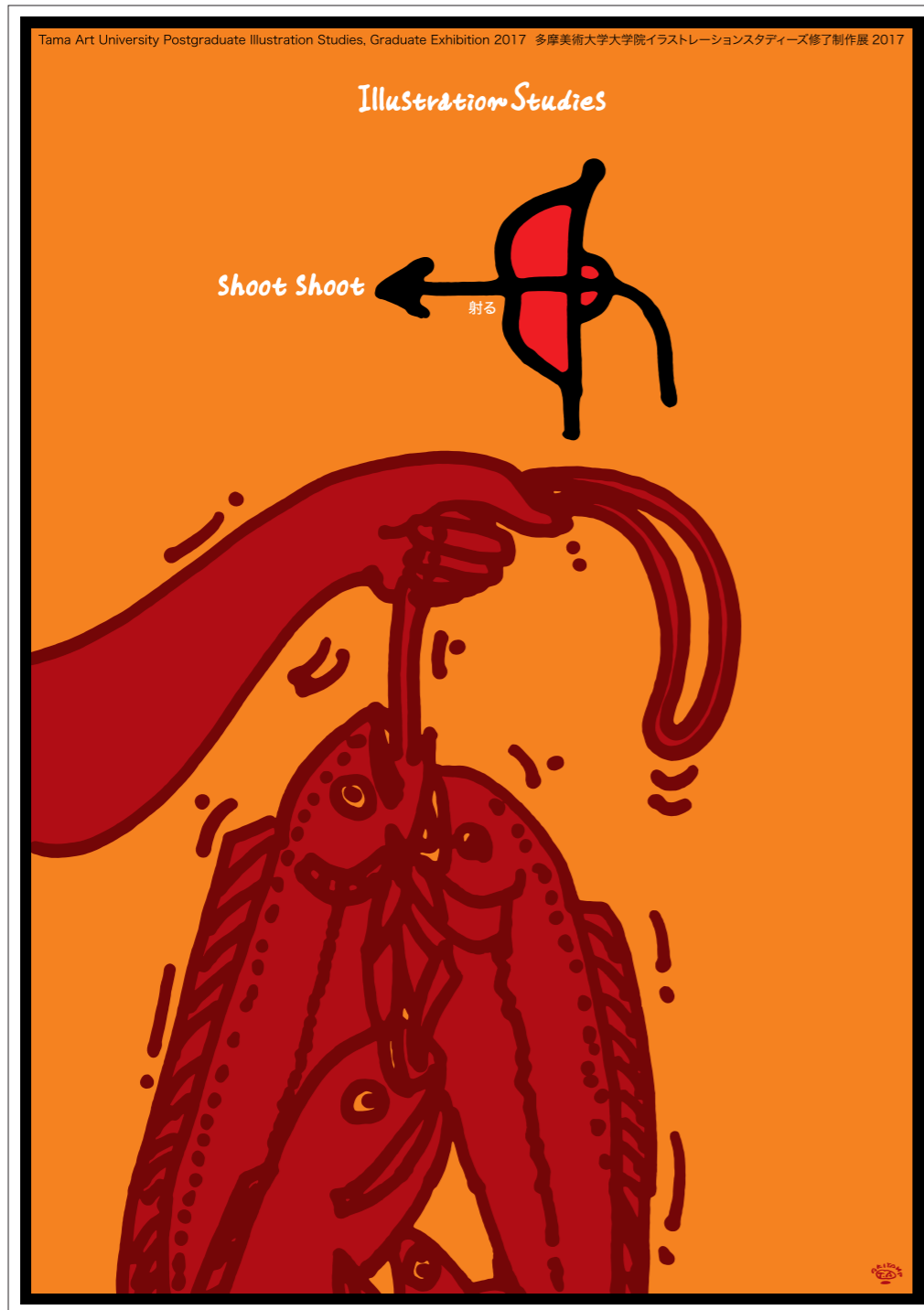
[Title] 作品募集 日本ブックデザイン賞2017
 [Size] 1030 × 728 mm (B1)
 [Technique] Offset printing
 [Date] 2017
 [Client] 秋山孝ポスター美術館長岡 (APM)
 [Category] Culture

[Idea] 秋山孝ポスター美術館長岡 (APM) は、第3回目の日本ブックデザイン賞2017の作品募集を開始した。ブックデザインはもともと装丁を意味し、本という知識の宝庫を長期間に渡って保存するために、その造本に関わる製本、本文や表紙の素材、箱といった図書の設計をすることだ。電子ブックの登場した今だからこそ、装丁の美、装画の力を見直し、再認識しなければならぬと考える。ブックデザインとは、読者と本の「最初の扉」といえるのだ。ポスターデザインは、第3回目を表す3冊の本が連なり、未来も継続できるようなデザインとした。手と背景が一体となり、イリュージョンを起こすように仕掛けた表現を試みた。



[Title] 日本ブックデザイン賞2016展
 [Size] 1030 × 728 mm (B1)
 [Technique] Offset printing
 [Date] 2016
 [Client] 秋山孝ポスター美術館長岡 (APM)
 [Category] Culture

[Idea] 秋山孝ポスター美術館長岡 (APM) は、2回目の日本ブックデザイン賞 (JBD) の展覧会を開催した。誰でも応募できるブックデザインの賞である。魅力のある本は、コンテンツが上質で人々の心に深く入り込む力がある。その本は、生涯の糧となる。その造本デザインするコンクールだ。手にもつ喜び、書棚に並べ長く保存できるデザインが求められる。賞が良く心に残るブックデザインは、美的感動を与えてくれる。そして、展覧会ポスターデザインは、良本の出会いと第2回展覧会の喜びを歌い上げている。描こうと努力していることを表している。

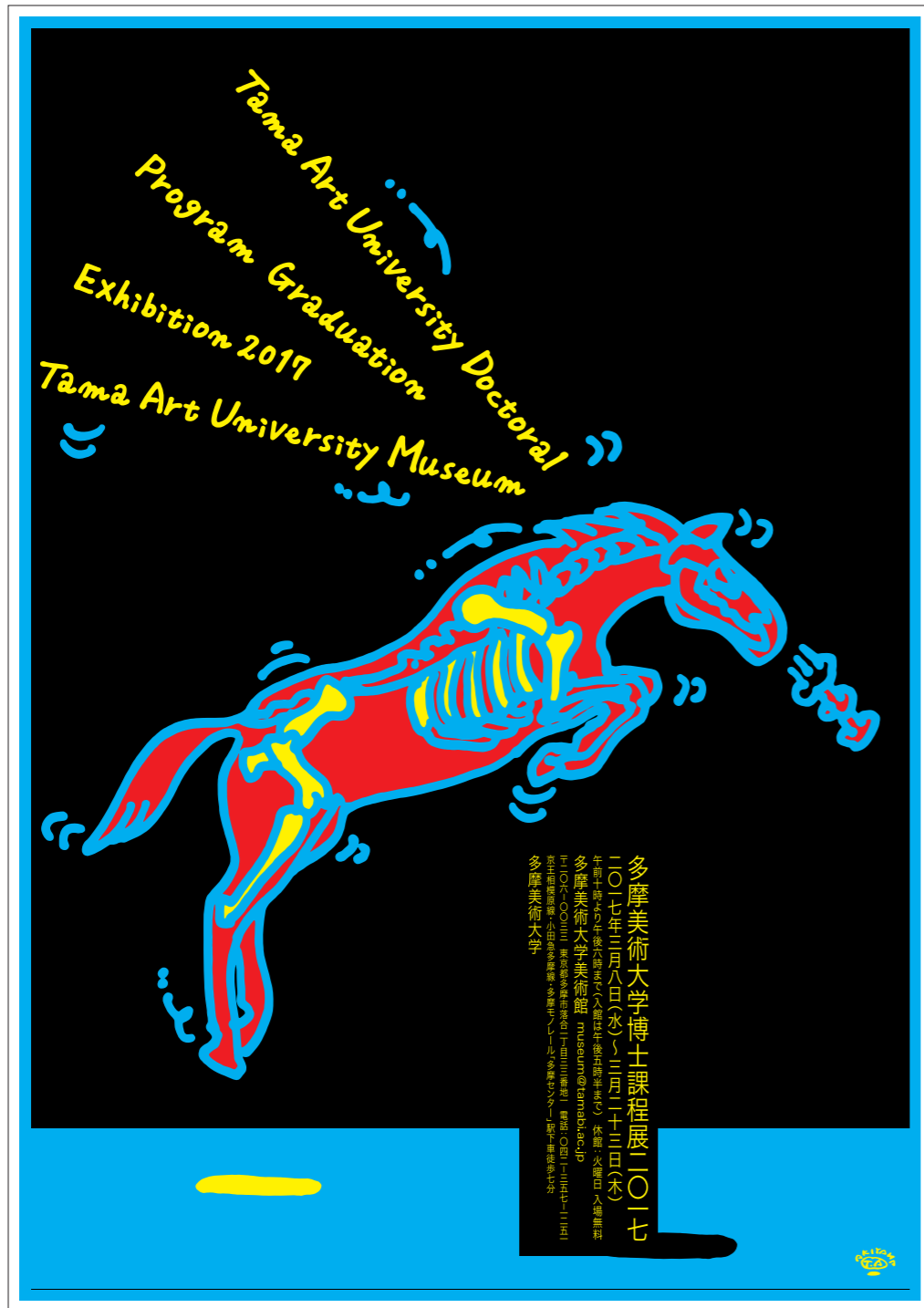


[Title] 多摩美術大学大学院イラストレーションスタディーズ修了制作展2017
 [Size] 1030 × 728 mm (B1)
 [Technique] Offset printing
 [Date] 2017
 [Client] 多摩美術大学イラストレーションスタディーズ
 [Category] Education

[Idea] 多摩美術大学大学院イラストレーション研究グループは本年度、博士学位取得者2名、博士前期学位取得者8名を出すこととなった。これまで21回にわたって学外で研究の成果を発表してきた。今回の修了制作展は第22回目となり、2017年3月1日から3月7日まで南青山にあるギャラリー5610で開催した。モチーフにしたイラストレーションは、古代ギリシア前17世紀テラ(サントリーニ)島「漁夫のフレスコ画」を引用した。2点シリーズの1点は、手に持っている漁夫の得た魚をクローズアップし、上部に書いてある文字は甲骨文字ではなく金文である。特徴は、そこに表れている矢の後部に手が描かれている。色彩はフレスコ画の色味を活用した。

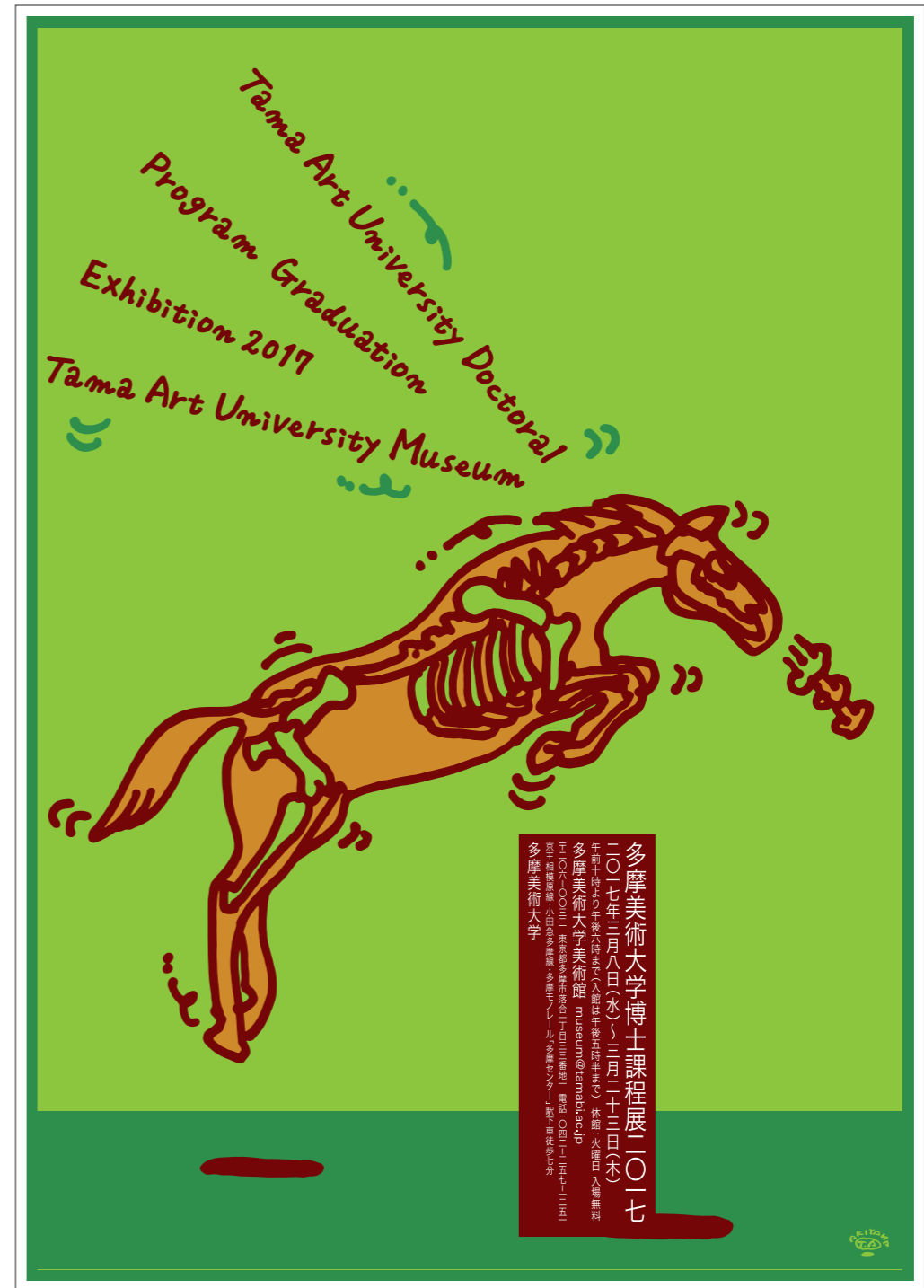
[Title] 多摩美術大学大学院イラストレーションスタディーズ修了制作展2017
 [Size] 1030 × 728 mm (B1)
 [Technique] Offset printing
 [Date] 2017
 [Client] 多摩美術大学イラストレーションスタディーズ
 [Category] Education

[Idea] 多摩美術大学大学院イラストレーション研究グループは本年度、博士学位取得者2名、博士前期学位取得者8名を出すこととなった。これまで21回にわたって学外で研究の成果を発表してきた。今回の修了制作展は第22回目となり、2017年3月1日から3月7日まで南青山にあるギャラリー5610で開催した。モチーフにしたイラストレーションは、古代ギリシア前17世紀テラ(サントリーニ)島「漁夫のフレスコ画」を引用した。胸に刻んである「射る」の文字は甲骨文字である。そしてその文字には矢自身は神聖なものであり、矢を放つことによって、その場を穢い清める意味がある。それをポスターに織り込み、展覧会の意味付けをした。



[Title] 多摩美術大学博士課程展2017 - 夜
 [Size] 1030 × 728 mm (B1)
 [Technique] Offset printing
 [Date] 2017
 [Client] 多摩美術大学
 [Category] Education

[Idea] 多摩美術大学博士課程展2017は14回目を迎えた。今回は日本画1名、工芸1名、イラストレーション2名が博士となった。日程は3月8日から3月23日まで多摩美術大学美術館で開催された。美術大学の特徴を活かして博士課程は論文と作品で審査される。主査、副査は理論と実技の教員で構成されている。ぼくの指導した柏大輔の題目は「イラストレーションにおける〈異型〉のイメージ作りのための方法試論」で、永田香は「ヴィーガニズムとリレーショナルアート」である。この2名が博士になったことは、指導者にとって誇らしいものとなった。デザインは馬の体内の骨も描かれ本質的な意味を表現し、知識の問題を乗り越えることをイメージした。



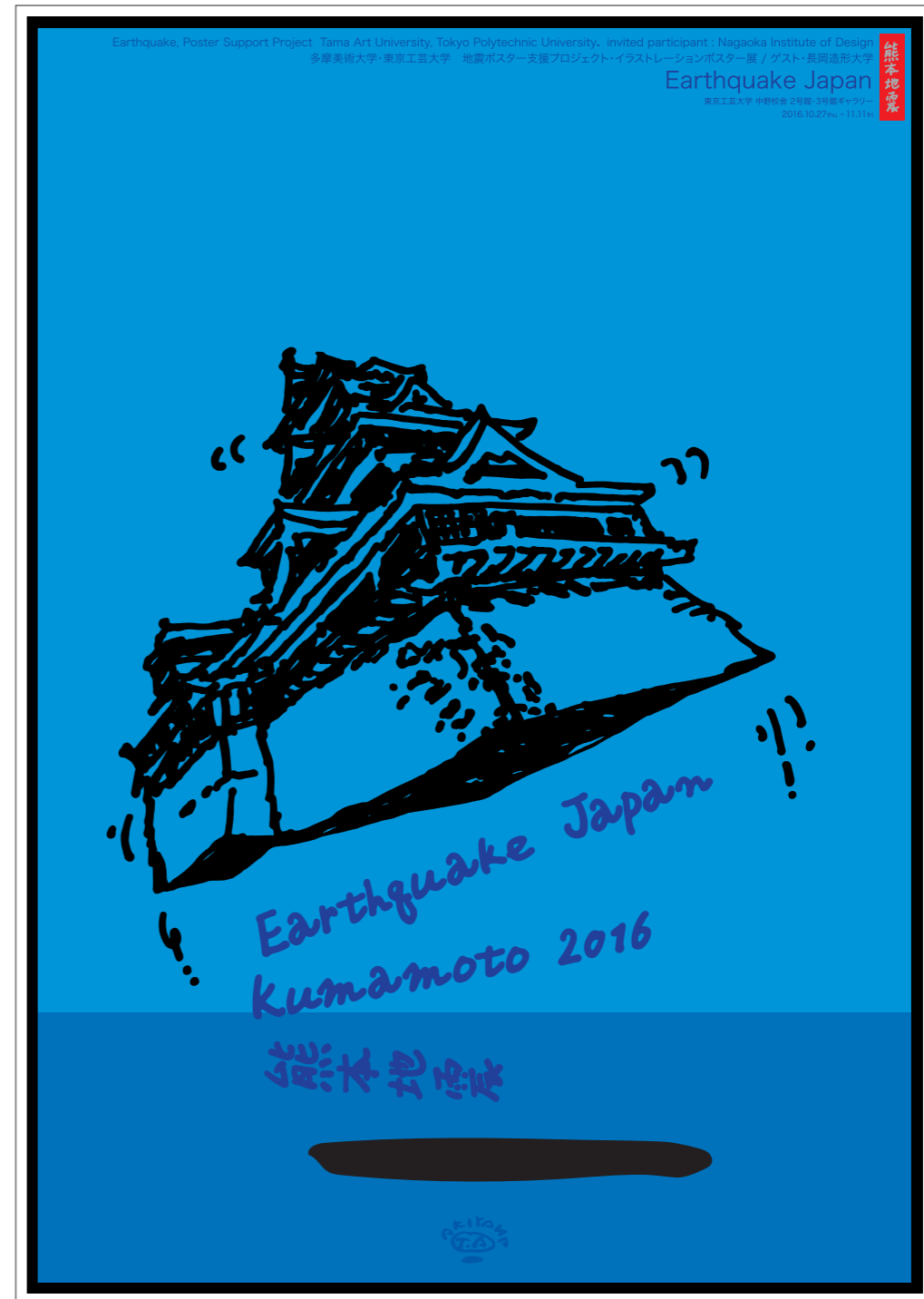
[Title] 多摩美術大学博士課程展2017 - 昼
 [Size] 1030 × 728 mm (B1)
 [Technique] Offset printing
 [Date] 2017
 [Client] 多摩美術大学
 [Category] Education

[Idea] 多摩美術大学博士課程展2017は14回目を迎えた。今回は日本画1名、工芸1名、イラストレーション2名が博士となった。日程は3月8日から3月23日まで多摩美術大学美術館で開催された。美術大学の特徴を活かして博士課程は論文と作品で審査される。主査、副査は理論と実技の教員で構成されている。ぼくの指導した柏大輔の題目は「イラストレーションにおける〈異型〉のイメージ作りのための方法試論」で、永田香は「ヴィーガニズムとリレーショナルアート」である。この2名が博士になったことは、指導者にとって誇らしいものとなった。デザインは馬の体内の骨も描かれ本質的な意味を表現し、知識の問題を乗り越えることをイメージした。



[Title] ----- 熊本地震 - Earthquake Japan
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)
 [Technique] ----- Offset printing
 [Date] ----- 2016
 [Client] ----- 地震ポスター支援プロジェクト
 [Category] ----- Social, Education

[Idea] ----- 「災害支援においてデザイナーのできることは何かということから、ポスターの力を使い災害を忘れずに記録すること」を目的にスタートした。13年目を迎える地震ポスター支援プロジェクト・ポスター展では、2016年4月14日熊本で起きた地震をとり上げた。熊本は、過去の阿蘇山噴火による堆積物でできた地質が特徴だ。5ヶ月間の地震回数は、震度7が2回、震度6強が2回、震度6弱が3回、震度5強が4回、震度5弱が9回と合計2,122回と今までに見られない地震動が観測された。2点シリーズのポスターデザインは、熊本の美しい水の色ブルーを基調色として使った。2点目の作品は、地震を怪獣に例えて表現している。そして、心より熊本の復興を願っている。



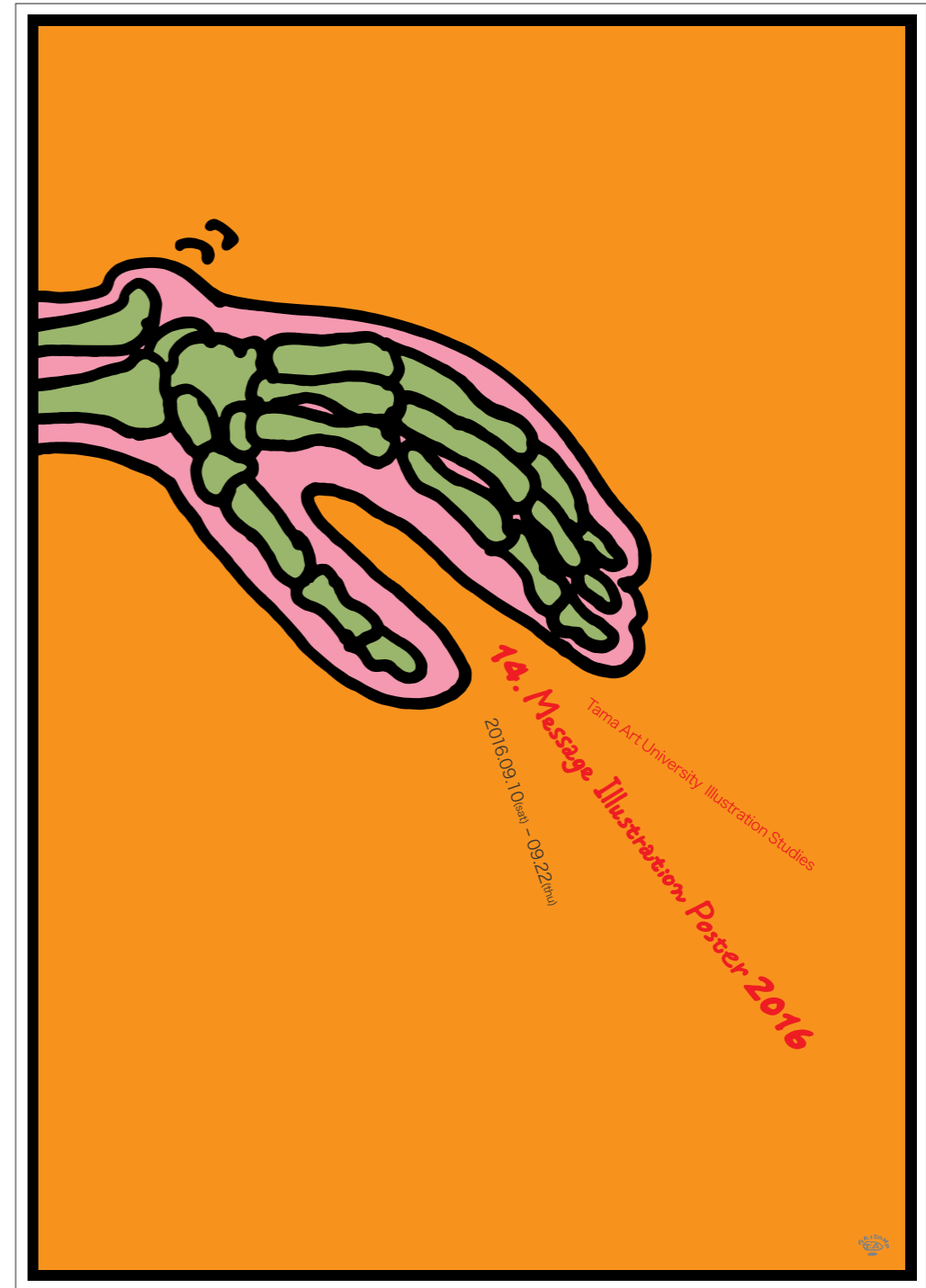
[Title] ----- 熊本地震 - Earthquake Japan
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)
 [Technique] ----- Offset printing
 [Date] ----- 2016
 [Client] ----- 地震ポスター支援プロジェクト
 [Category] ----- Social, Education

[Idea] ----- 「災害支援においてデザイナーのできることは何かということから、ポスターの力を使い災害を忘れずに記録すること」を目的にスタートした。13年目を迎える地震ポスター支援プロジェクト・イラストレーションポスター展では、2016年4月14日熊本で起きた地震を取り上げた。熊本は、過去の阿蘇山噴火による堆積物でできた地質が特徴だ。5ヶ月間の地震回数は、震度7が2回、震度6強が2回、震度6弱が3回、震度5強が4回、震度5弱が9回、合計2,122回と今までに見られない地震動が観測された。ポスターデザインは、熊本を象徴する熊本城が地震で飛ぶ、あるいは浮かぶ姿を描いた。ブルーは熊本の美しい水を表している。そして、心より熊本の復興を願っている。



[Title] 8. Message Illustration Poster in Nagaoka
 [Size] 1030 × 728 mm (B1)
 [Technique] Offset printing
 [Date] 2016
 [Client] 秋山孝ポスター美術館長岡 (APM)
 [Category] Education

[Idea] 多摩美術大学大学院のグループ、メッセージイラストレーションポスター展委員会が主体となり「メッセージイラストレーションポスター展8」を開催した。メディアで活躍する視覚芸術としてイラストレーションを位置付けて、自主的な発信発表を行っている。3つのキーワード「メッセージ(内容)」「イラストレーション(表現)」「ポスター(メディア)」がその指針となっている。ポスターが訴えかけてくる情報量の多さは計り知れない。今回のポスターのデザインは「人間は自分の心の中にある気持ちを人々に伝えるのに身体全身を使っている」その魅力的な姿を象徴的なイラストレーションで表現した。頭部に顔を描いていない。



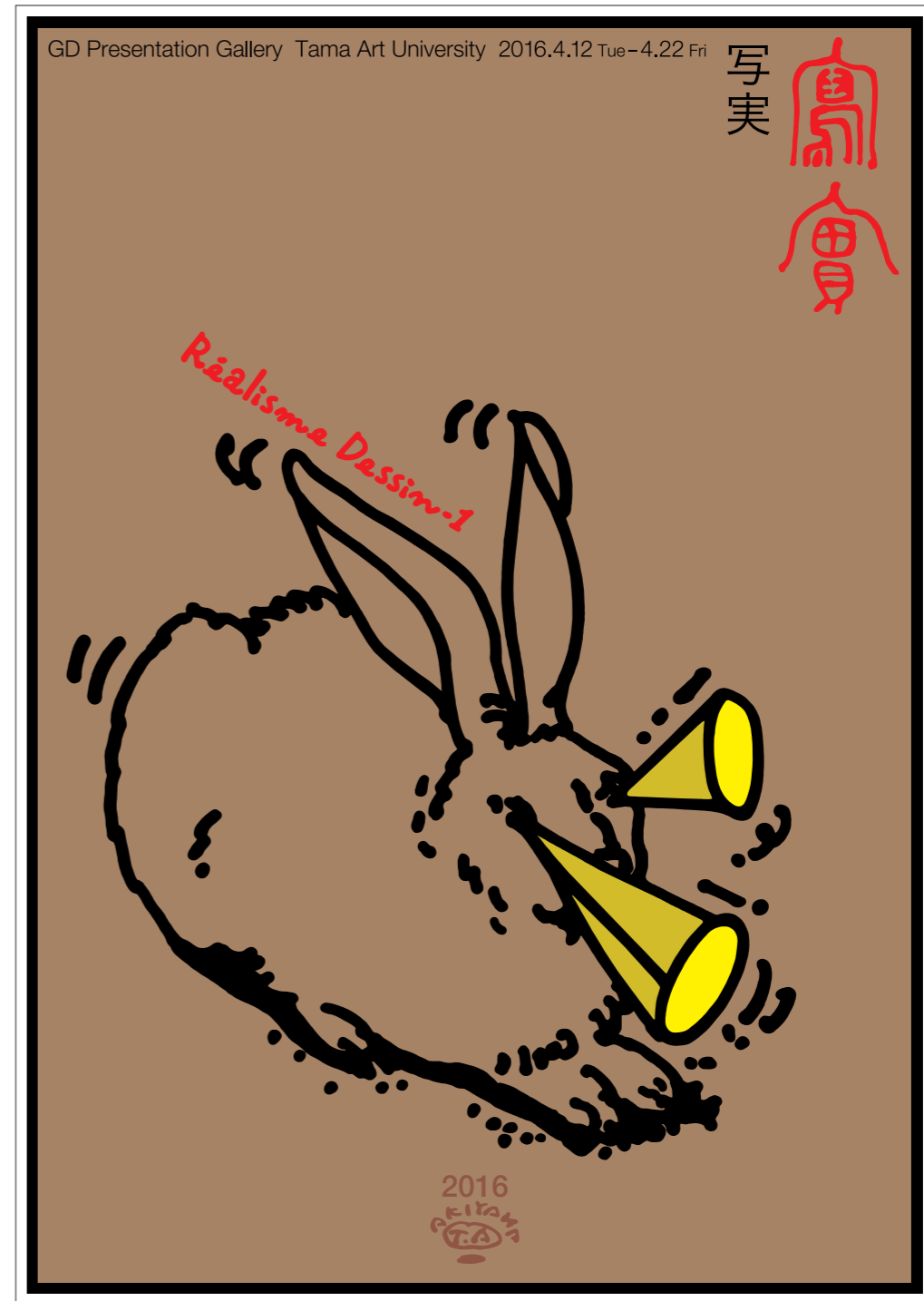
[Title] 14. Message Illustration Poster 2016
 [Size] 1030 × 728 mm (B1)
 [Technique] Offset printing
 [Date] 2016
 [Client] 多摩美術大学イラストレーションスタディーズ
 [Category] Education

[Idea] 多摩美術大学グラフィックデザイン学科イラストレーション・スタディーズでは、9月10日より「メッセージイラストレーションポスター展」を開催した。本年度「表現デザイン」の授業で制作されたメッセージポスター作品、及び大学院博士前期(修士)課程・博士後期課程学生、計77名の出品者のポスター作品を展示した。その表現の可能性を探ろうとするものである。2000年にスタートし、今回で14回目を迎えた。テーマは「社会・国内問題 / 卒業制作研究テーマ / 各自の研究テーマによる」だ。ポスターデザインは、手から生み出されるアイデアが声になって発せられるイメージを描いた。色彩からは、心の熱い思いを伝えている。



[Title] ----- Student Conference 2016
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)
 [Technique] ----- Offset printing
 [Date] ----- 2016
 [Client] ----- 多摩美術大学イラストレーションスタディーズ
 [Category] ----- Education

[Idea] ----- 14年目を迎える多摩美術大学グラフィックデザイン学科イラストレーションスタディーズ・学生会議2016は「発想の秘密①対比」をテーマとして会議を開催した。2003年の1回目は「なぜイラストレーションを描くのか!?!」という当たり前の基本的なテーマとした。会議を繰り返すたびにイラストレーション学の内容の充実が顕著になった。それは、イラストレーションとは何かという命題の本質の深みに到達する試みに挑んでいることに他ならない。ポスターデザインは、「The Secret of Idea 1 - Comparisons / Contrast」と題し画面を補色で2分割した。さらにイメージも強弱の対比効果を狙った。



[Title] ----- リアリズム-1 / Dessin
 [Size] ----- 1030 × 728 mm (B1)
 [Technique] ----- Offset printing
 [Date] ----- 2016
 [Client] ----- 多摩美術大学デッサンプロジェクト
 [Category] ----- Education

[Idea] ----- 1993年に基礎デッサンのプログラムをスタートしてから24年目を迎えた。本年は「リアリズム-1」と題した展示会を多摩美GDプレゼンテーション・ギャラリーで4月12日から22日まで開催した。描くための画材や技術、そして表現の広がりとなるイズムへの展開を学び、リアリズムの本質を理解する。そのことによって、グラフィックデザインの表現の基礎能力を高めることを目的としている。展示会告知ポスターデザインは、課題の中のひとつである「アトリエの剥製を描く」にて研究画家として取り上げた「野兎」(1502年)を描いた北方ルネサンスのデューラーだ。その野兎をモチーフとしてデザインした。目から出る放射線は見抜く力を意味している。



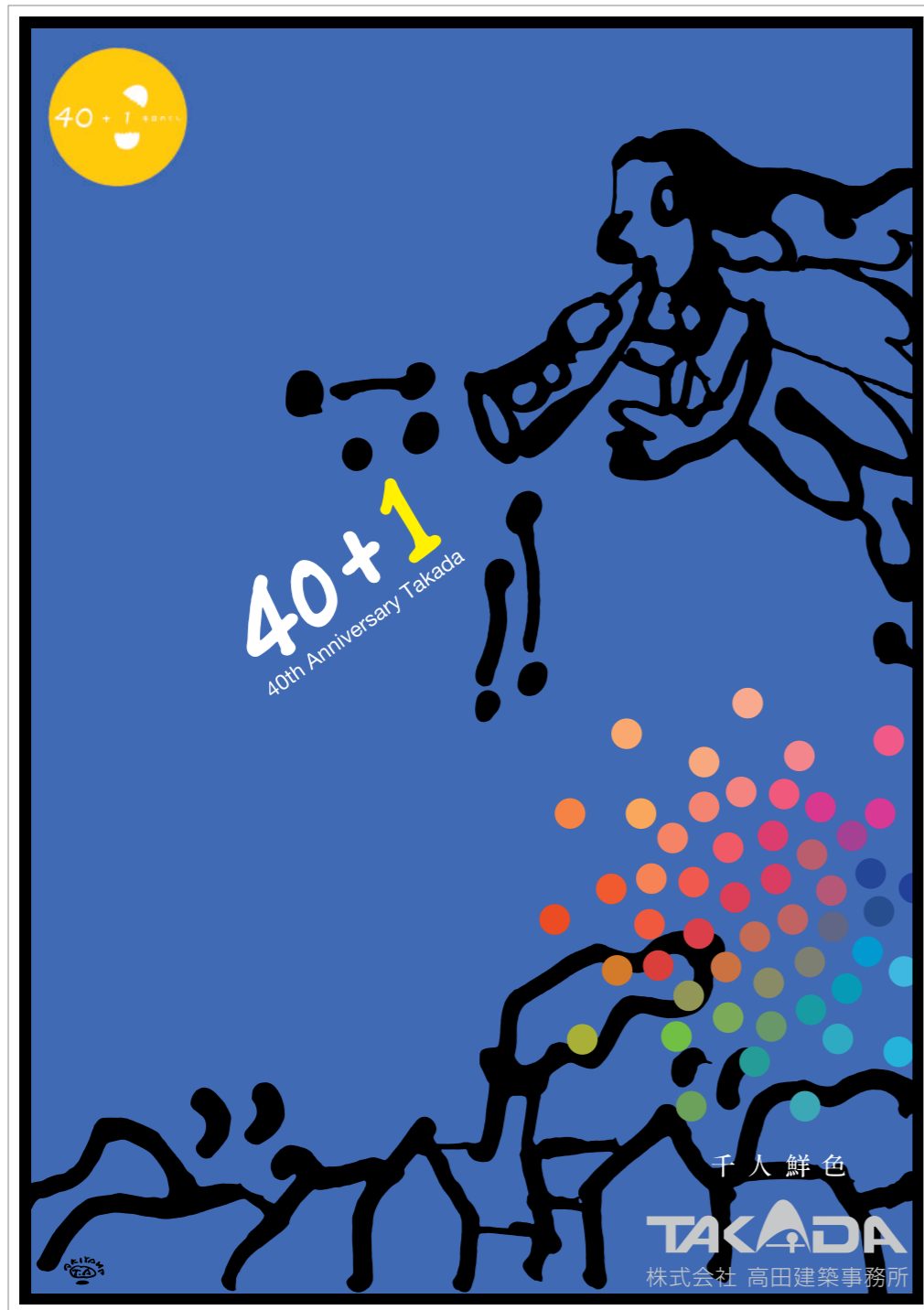
[Title] 秋山孝の神秘「点と線」展 / 点と線・裏・豚
 [Size] 1030 × 728 mm (B1)
 [Technique] Offset printing
 [Date] 2016
 [Client] 秋山孝ポスター美術館長岡 (APM)
 [Category] Culture

[Idea] 2016年7月9日から9月24日まで、APMで開催した秋山孝の神秘2の2点シリーズのうち1点のタイトルは「点と線・裏・豚」である。スーラの表現を見ると「形を失いながら形の活用」の思考がある。それを「線解」「点解」と位置づけ、「字形」「字解」に類似する「形を失う」「形の活用」の思考を研究した。結果、平面つまり二次元空間における「点」と「線」の役割についての考察によって、独自の表現を導き出した。また、人間の手で描けない数学的な「点」「線」(ベジェ曲線、円、楕円)と対比し、脳と筋肉の指示によってできる線の軌跡の重要性も人々の心に入り込む能力をもっていることも意識しているが、この作品には点表現で表している。



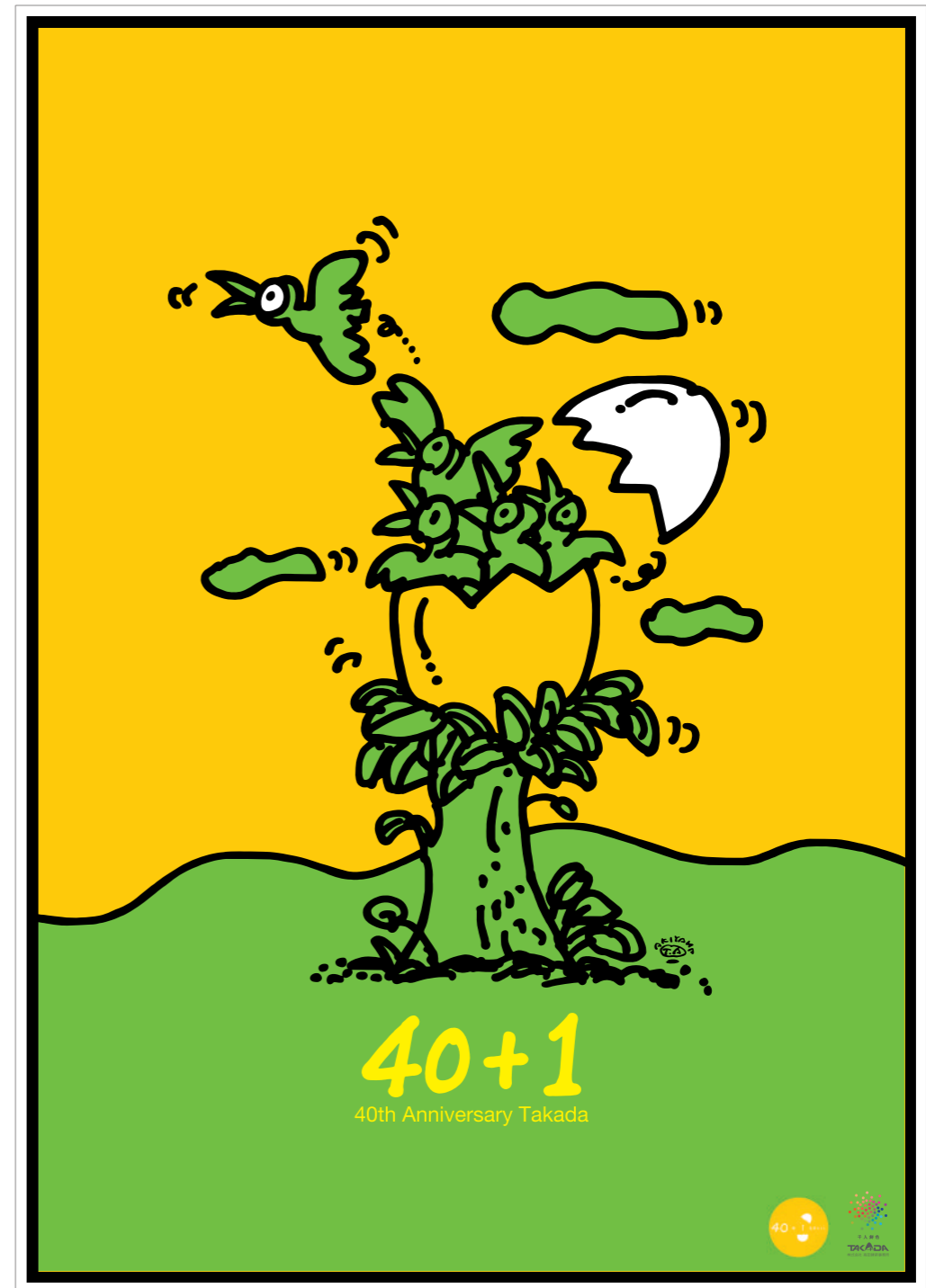
[Title] 秋山孝の神秘「点と線」展 / 点と線・面・骨
 [Size] 1030 × 728 mm (B1)
 [Technique] Offset printing
 [Date] 2016
 [Client] 秋山孝ポスター美術館長岡 (APM)
 [Category] Culture

[Idea] 2016年7月9日から9月24日まで、APMで開催した秋山孝の神秘2の2点シリーズのうち1点のタイトルは「点と線・面・骨」である。講演会テーマは「点と線」で、サブタイトルは「形を失う形の活用」の考察とした。その内容のイントロダクションとして、31歳の若さで没した19世紀のフランスの画家ジョルジュ・スーラを取り上げた。スーラは光学的理論を取り入れ、点描という技法を生み出した。彼は、従来の空間とは異なり、光学的な視点で平面上における空間の概念を発見した。その考え方をもとに、核医学検査の骨シンチグラフィで撮影した秋山孝の写真を活用し、点によってできる表現を使い、今回のポスターを制作した。



[Title] 40+1 Anniversary Takada (night)
 [Size] 1030 × 728 mm (B1)
 [Technique] Offset printing
 [Date] 2016
 [Client] (株)高田建築事務所
 [Category] Culture

[Idea] 秋山孝ポスター美術館長岡・サポーターズ倶楽部会長である高田清太郎(代表取締役)氏の(株)高田建築事務所創立40周年式典が2016年4月8日に開催された。式典はアオーレ長岡市民交流ホール、祝賀会は長岡グランドホテルで、心のこもった式典と祝賀会であった。高田氏の恩師、日本大学名誉教授の齋藤公男先生による講演が開催され、研究から導きだされた建築世界の醍醐味を味わった。式典を記念し「昼と夜」2点シリーズのポスターを制作した。「夜」のポスターコンセプトは「40+1年目のとし」で、40年が経ち再スタートするという意味がこもっている。長岡花火のもとに、未来に向かっての好機を表す天使のお告げが、笛の音とともに響き渡ってくる。



[Title] 40+1 Anniversary Takada (day)
 [Size] 1030 × 728 mm (B1)
 [Technique] Offset printing
 [Date] 2016
 [Client] (株)高田建築事務所
 [Category] Culture

[Idea] 秋山孝ポスター美術館長岡・サポーターズ倶楽部会長である高田清太郎(代表取締役)氏の(株)高田建築事務所創立40周年式典が2016年4月8日に開催された。式典はアオーレ長岡市民交流ホール、祝賀会は長岡グランドホテルで、心のこもった式典と祝賀会であった。社長挨拶は、モーゼが民族を率いてエジプトからカナンの祖先の地に帰る道のりを40年間の旅に例えた話であった。式典を記念し「昼と夜」2点シリーズのポスターを制作した。「昼」のポスターコンセプトは「40+1年目のとし」で、40年が経ち再スタートするという意味がこもっている。4羽の鳥が40年を表し、残りの1羽が「40+1年目」の旅立ちだ。



「日本ブックデザイン賞2016」カタログ 2016年9月4日 発行



カタログ 見開き



秋山孝著 / イラストレーションスタディーズがタイ(シリパコーン大学)で出版 / 2016年9月



秋山孝著「Dictionary of Visual Language A to Z - E・F・G」 2017年3月1日 発行



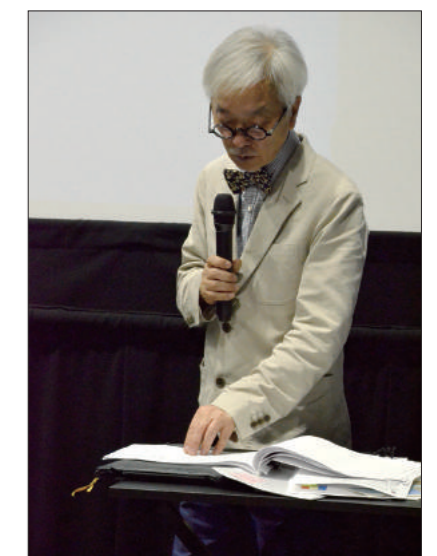
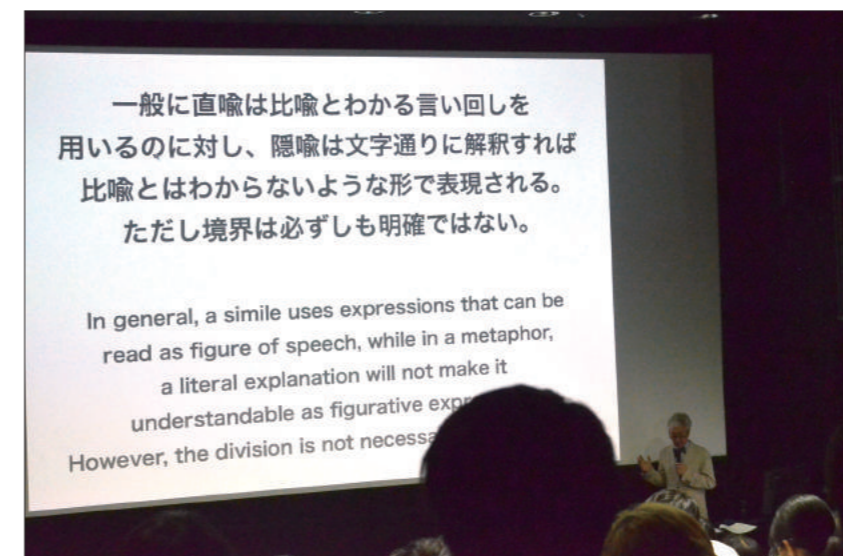
秋山孝 / 東京工芸大学講義 / 2016年7月15日



秋山孝著「Dictionary of Visual Language A to Z - C・D」 2016年3月1日 発行



秋山孝著「Dictionary of Visual Language A to Z - A・B」 2015年3月1日 発行





中国、武漢大学で秋山孝の神秘「メタファー」「点と線」について講演。
「The National Conference on Children's Safety and Development」で「ふなばしアンデルセン公園」についてプレゼンテーション。 / 2016年12月4日



中国、陝西省。西安建築科技大学で講演と客座教授の称号を受ける。
陝西省美術博物館にて日本現代作品展「秋山孝のポスター作品展」展を開催。 / 2016年12月26日から2017年1月5日

2016年(平成28年)8月1日に
国の登録有形文化財に登録

新聞記事抜粋: 県内30件有形文化財に 小松屋旅館本館(新潟)など. 文化審答申. 国の文化審議会(宮田亮平会長)は11日、新潟市小松屋旅館本館や村上市の野沢喜平家住宅を登録する有形文化財に選定した。...

新潟日報 / 2016年3月12日

Table with 3 columns: No. (e.g., 1, 2, 3), Name, Address. Contains a list of registered cultural properties.



登録有形文化財プレート



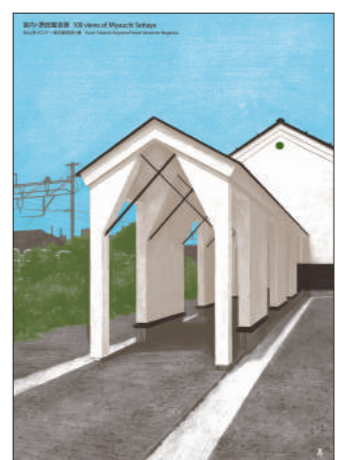
秋山孝ポスター美術館長岡(APM)外観

秋山孝ポスター美術館長岡

秋山孝ポスター美術館長岡・蔵



ポスター: 大町駿介



ポスター: 御法川哲郎

2017年「秋山孝ポスター美術館長岡」企画展・美術館大学のご案内

- 第25回企画展 秋山孝ポスター展9 秋山孝の神秘「パラダイム」展 / 5月13日(土)～9月30日(土)
第37回美術館大学 講演「秋山孝の神秘『パラダイム』について1」
第38回美術館大学 講演「秋山孝の神秘『パラダイム』について2」
第39回美術館大学 講演「建築における『パラダイム』について」(仮)

APMは2017年5月よりAPM・蔵(別館)とAPM(本館)をガイド付きでご案内致します。入館料は無料のまま、開館日が週3日(金・土・日曜日)のみ、事前予約制となります。

開館日: 金、土、日曜日(事前予約制)
開館期間: 2017年5月13日(土)～11月26日(日)
見学時間: am11:00, pm2:00, pm4:00の1日3回
休館日: 月、火、水、木曜日
入館料: 無料

- 【その他予定】
中之口先人館 特別展 / 5月27日(土)～6月25日(日)
長岡まちなかミュージアム / 9月1日(金)～9月7日(水)

APM23
Poster-8 2017-2016 Takashi Akiyama
発行日: 2017年4月1日
発行所: 秋山孝ポスター美術館長岡

APM23
Poster-8 2017-2016 Takashi Akiyama
Date of issue: 2017.04.01
Publisher: Takashi Akiyama Poster Museum Nagaoka

印刷所: 東銀座印刷出版株式会社
※無断で複写、複製および使用を禁ず。

© 2017 Takashi Akiyama, Published in Japan by Takashi Akiyama Poster Museum Nagaoka.

All right reserved.No part of this book may be reproduced in any form or by any means, electronic or mechanical,including photocopying or recording, or by any information storage and system,without permission in writing from the publisher.